

全国

ぜんこく
しぎかいじゅんぼう

平成18年
(2006年) 8月25日

第1625・26号

毎月3回5の日に発行

定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
TEL 03(3262)5237
発行人 大竹 邦実

http://www.si-gichokai.gr.jp

市議会旬報

議会の機能向上を目指して

第1回研究フォーラム開催

本会

本会は8月3日、第1回全国市議会議長会研究フォーラムを東京・日比谷公会堂で開催した。

同日は、市議会議長、副議長、議員、議会事務局職員ら1000人を超える地方議会関係者が参加するなか、学識経験者による基調講演や市議会議長らによるパネルディスカッションが行われた。



あいさつする
国松会長

一穂・金沢大学大学院教授・NPO研修・情報センター代表理事、中西晴史・日本経済新聞社地方部編集委員、中森慎二・四日市市議会議長の4人。

飯尾氏は、議会の二元代表制に基づいた機能強化を図るべきと主張した。

中西氏は、地方議会に対し、政策形成の芽が出ており非常に期待しているものの、市民に対する情報が著しく少

ないと指摘した。

また、議長の中森氏は現場の視点から、四日市市が制定した市民自治基本条例に対する取組事例等を紹介した。

これらの討論を受け、磯崎氏が、次回の研究フォーラムでは各議会から実践例の報告を求めて、さらに議論を深めたいとし、パネルディスカッションを締めくくった。概要は近く掲載予定。

なお、第2回研究フォーラムは、熊本市で平成19年10月15日から16日にかけて開催する予定。



中森・四日市市議会議長ら
パネリスト(写真右)と
コーディネーター(写真左)



はじめに、主催者の国松誠・本会会長が開会あいさつを述べたのち、北川正恭・早稲田大学大学院教授が「分権時代と二元代表制」をテーマに基調講演。「北京の蝶々」をキーワードとして、中央集権型社会から地方分権型社会へと移行したのちの地方議会や議員のあるべき姿について、二元代表制の観点から述べた講演要旨は2面に掲載。

人事院は8月8日、平成18年度の国家公務員一般職の給与について、月例給与と期末・勤勉手当(ボーナス)を改定せず、現行水準に据え置くよう国会と内閣に勧告した。据え置きは16年度以来2年ぶり。

現行水準を維持

国家公務員の給与勧告

人事院

企業の水準と均衡させることを基本に毎年行っている。

今年度から官民給与の比較方法について見直しを行い、比較対象企業規模を従来の100人以上から50人以上に改めるとともに、月例給与の比較対象となる民間企業の従業員

の範囲拡大などを行った。その結果、公務員と民間の月例給与、期末・勤勉手当ともほぼ均衡しているため改定を

行わないこととした。官民比較のための調査対象の見直しについては、公務員の人員費改革の一環として、政府が7月に決定した「骨太方針2006」に盛り込まれている。

人事院は、昨年の勧告時に給与構造改革の全体像を示し、俸給制度、諸手当制度全般にわたる改革を18年度以降5年間で実施するとしていた。19年度からの改定として地域手当の支給割合の改定、広域異動手当の新設、俸給の特別調整額の定額化、などの実施を求めている。

8月3日に開かれた第1回全国市議会議長会研究フォーラムにおける、北川正恭・早稲田大学大学院教授の講演を要約して掲載します。

立ち位置変えて分権自治

「北京で1羽の蝶々が羽ばたくと、ニューヨークでハリケーンが生じるこれは、「バタフライ・エフェクト」(蝶々の効果)という学説で使われる例え話です。蝶々の羽ばたきという、ごくわずかな気流の乱れが、巨大な嵐を引き起こす。ミクロの「ゆらぎ」が予想を遥かに超えたマクロの変化をもたらすという意味です。

これまで我々は、「中央集権」という思い込みの中で育つてきました。霞が関や永田町を一生懸命歩き回ることに、首長や地方議員の仕事だと思い込んできましたが、今日は「北京の蝶々」を縦糸にして、地方分権によって今後の立ち位置が変わるとい話をしてみたいと思います。

中央集権とは、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」といった経営資源を全て中央に集めることです。未成熟な社会、モノが不足した社会などでは、効率的に機能しました。

しかし中央集権による政策の結果、現在の日本社会は成熟しモノは充足したので、今後は立ち位置を変える必要があると思います。すなわち、画一化した社会から多様な社会へと変化していますから、中央集権から分権自治へと推移しなければ、主権者である市民の期待に応えられないだろうと思います。



早稲田大学大学院教授 北川正恭氏

分権時代と二元代表制

【基調講演】

な権限を握り独走を始める場合があります。良い独走ならいいのですが、間違った独走を始めた場合、歯止めを掛けるのは議会の役割です。分権では、首長の権限も増します。議会の力も増加します。よって、もっと皆さんに力を付けてもらいたいと思います。

重要になってきます。つまり二元代表制です。

皆さんには、議決機能、議事機能、条例制定機能を大いに発揮していただき、地域のあり方を存分に議論する。これが分権であり、議会の役割になるつもりです。

◆議会自ら羽ばたこう

最近、自治基本条例が全国で作成されており、私は大変喜んでおります。私の個人的見解ですが、こういった街の

ことになると思います。そして、議員提案で自治基本条例を熟慮していただければ心から期待しています。自分達で、「自分達は工場誘致をしない。農業で生きていく」学校教育を徹底する」と決めたら、そこに資源を集中していく。これが分権自立です。

行政評価法も情報公開法も、条例を地方自治体が頑張つて作ったから出来たのです。どうか皆さんには議会で立ち上がっていただき、自治基本条例あるいは個別の条例などを懸命に作っていただきたい。

三重県四日市市では、自治基本条例があるなら議会基本条例を作ろうと。そして既にほとんどをまとめ上げ、分権時代の議会のあり方を徹底的に模索されています。

と、首長さんは巨大な権力を手にすることになります。すると、今までの議会のあり方が大きく変わらざるを得なくなりそうです。今までの地方自治体が行う仕事は、機関委任事務が多かった。県の事務で80%、市町村の事務で40%くらいありました。

しかし、現在は機関委任事務が廃止され、自治事務と法定受託事務に分けられました。国と地方の対等関係をきちんと担保されたことになりました。このため、首長は巨大

構想し、正しいと思う街をつくっていかねばいけません。海の町と山の町では特色が違うという、その違いが明確に出てくることこそが大変重要なことです。

今までは、機関委任事務に関して、議会が関与することは出来ませんでした。しかし今後は、ほぼ全ての案件が議会の議決事項になりますから、監視機能の強化も当然ながら必要ですが、更に議決・議事機関としての役割が非常

憲法を作ることこそが議会の仕事ではないかと思っております。国に憲法があるように、分権後は市民から選ばれた議員から「自分達の街はこうやってつくりましょう」という動きが起こり、市民を巻き込んでいく。そして、自分達の街をどうしようというところで徹底的に議論する。

このような善政競争を、我々、地方公共団体OBがほとんど全国に情報発信をしていこうと思います。ですから、お互いが響き合い国を変えていこうではありませんか。

地方が変われば、国が変わります。ある大政治家が国を変えようと思いましたが、しかし変わらなかった。組織を変えようと思った。変わらなかった。自分が変わったら、全て変わった。つまり改革とは、自分を変えることです。

すなわち「北京の蝶々」となって、自らが自らを変え始めた時、この国は必ず変わると申し上げ、話を終わらせていただきます。

議会

トピックス

「脳脊髄液減少症の研究・治療推進」が急増
減少症
「脳脊髄液減少症とは、交通事故やスポーツ障害等での頭部や全身への強い衝撃により、脳脊髄液が慢性的に漏れ続け、頭痛、腰痛、めまいなど様々な症状が複合的に発現する病気であり、難治性のいわゆる「むち打ち症」の原因として注目されている。しかし、この病気はこれまで原因が特定されない場合が多く、「怠け病」「精神的なもの」と判断され、患者、家

族らは肉体的、精神的に大変な苦痛を強いられている。そのため意見書では、患者

数など実態を明らかにし、全国的に診断・治療が行われるよう患者の実態調査の実施

と患者・家族に対する相談・支援体制の確立 病気のさらなる研究の推進と診断法、治療法の早期確立 治療法の確立後、新しい治療法に対する保険の早期適用などを求めている。

6月定例会の意見書・決議の状況 (上)

「脳脊髄液減少症の研究・治療推進」が急増

意見書・決議の議決状況 (上)

(18.5.1~18.7.31)

Table with columns: 件名, 意見書, 決議. Rows include categories like 税・財政, 地方行政・議会・選挙, 医療・保健衛生, 教育・文化, 農林・水産.

議事人

議長 奈良 和田晴夫(7.4) 二本松 市川清純(7.10) 山崎 山崎郁朗(7.11)

副議長 奈良 森田一成(7.5) 二本松 加藤和信(7.10) 尼崎 荒木伸子(7.11) 周南 小林雄二(7.11) 平川 小田桐信勝(7.18) 古河 茂田絹子(7.19) 宮津 谷口喜弘(7.19) 米子 松井義夫(7.20) 立川 米村弘(7.24)

訂正

本紙第1624号2面の社会文教委員会の会議概要の本文と写真説明で、社会文教委員長の氏名が「立脇道也」とあるのは、立脇通也の誤りでした。お詫びして訂正します。

熊谷 長島俊平(7.24) 事務局長 夕張 佐藤憲道(7.1) 桶川 岩崎長一(7.1) 岩国 我嶋教央(7.1) 都城 日高裕文(7.1)

会議時間

各市議会の会議規則には、本会議を行う時間が規定されています。これを会議時間といいますが、

会議時間は「午前10時から午後4時まで」のように本会議を開くことができる時間帯が規定されています。

議長は会議規則に定められた会議時間内であればいつでも本会議を開くことが可能です。例えば会議規則で会議時間

間が「午前10時から午後3時まで」と規定されている市議会において、通常は10時から

会議を開いているが、準備等の都合により11時から本会議を開かざるを得ない状況である場合、議長は後に述べる会

議時間の変更の手続きを行うことなく午前11時に本会議を開くことが可能です。ただし

この場合でも、他の議員や本会議の傍聴者等に本会議を開く時間が通常と異なることを



- 5 -

通知するなど適切な対応をとることが必要と考えます。

なお、本会議の開始時間が会議規則に定めた時間帯であれば会議規則上の会議時間の変更には該当しませんが、本

会議の議事が長引き、当初予定していた時間までに本会議が終了せず、かつ会議規則に

定めた会議時間を越えて本会議が行われる場合、議長は会議時間の延長を行う必要があり

ます。これを会議時間の変更といえます。

会議時間の変更は、会議規則にあるとおり、議長が必要であると認めた場合に行うこ

とができますが、これに会議規則が定める人数以上の議員が異議を申し出た場合は、討

論を用いないで会議に諮って会議時間の変更を決定することになつていきます。

会議時間の変更はこのように会議時間の延長によるものが多いと思われませんが、会議規則上は本会議の開始時間を

市民に政策目標を公表

塩竈市(宮城県)

り組みを紹介します。

三陸の沖合で獲れ、塩竈魚市場に水揚げされたマグロなどをネタとする寿司は絶品で味も日本一なら、寿司屋の密度でも日本一の塩竈です。

そこで、『元氣・安全・大好き』をキーワードに「日本で一番住みたいまち」をめざしている港町/塩竈市での取

り組みを公表したことを記事にしたある全国紙の見出しです。

市長との約束
市民へのマニフェスト

『計画のときから市民参加、情報公開で透明な市政』を掲げた佐藤昭市長は、就任早々の平成15年5月、管理職

市政ニュース

と判断された時期が会議時間を繰り上げようとする会議の直前や前回の本会議を閉じた

後など、会議規則に認められている他の議員からの異議の申し出が事実上不可能な場合

でも会議時間の変更は可能です。ただし、この場合は先に述べたとおり事実上、議員から

の異議の申し出は不可能であることから、その決定について議長は、議会運営委員会

への諮問など議会内での十分な意見調整を行った上で決定するなど慎重な対応が必要であると考えます。

【参考文献一覧】
議会運営の実際第一巻(自治日報社)、地方議会用語辞典(ぎょうせい)、議会運営実務提要(ぎょうせい)



塩竈の寿司屋は味も密度も日本一!

と個別に面談しました。そのときに、課長の仕事への意気込みが盛り込まれた政策目標である「チャレンジ」を作成。

翌年には、部長も「ミッション(使命)」を作成し、施政方針や予算に計上された課題をどう実現していくか、職場での議論を踏まえて市長と部課長

が語り合ってきました。こうして、市長から担当者まで認識を共にしたミッションとチャレンジの取り組みは

4年目を迎え、2006年度版として市民に公表されました。これには45件の政策目標と、それを実現するための重点施策137件が盛り込まれました。

市民と双方向の議論「ミッション・チャレン

ジ」には、市民が理解し評価しやすくするために「一人一日当たりのごみ排出量を840gから790gに削減」など目標や達成時期を数値で表示しました。また、市民が意見を寄せる際の利便性を考えて担当部ごとに電話番号とメールアドレスを設けたほか、親しみやすいように部長の顔写真を載せました。年度末には、1年間の取り組みと成果を公表し、次年度の政策に反映させます。

このような取り組みを始めた背景には、厳しい財政の下での市政運営は事業目的や予算配分を公開して市民の理解を得る必要がある、との判断がありました。思わぬ反響と励まし 政策目標をホームページにアップして間もなく、本市出身の方たちからは「いい情報を耳にすると誇り高く感じる。三日坊主に終わらせるな」とか、情報化時代に向けて、地方発信で頑張ってください、と、地方発信で頑張ってください、と、これからの市民と共に「日本が一番住みたいまち/塩竈」を目指していきます。(文・写真は塩竈市提供)